

## 北海道放送

活動名	HBC アナウンサーによる読み聞かせ
実施期間	令和 5 年 7 月～令和 5 年 11 月
実施回数	会場 10 回

### 【事業実施の成果・課題】

学校現場でのマスク着用方針が緩和され、過去 3 年間自粛してきた読み聞かせ前の児童とアナウンサーによる早口言葉を復活させました。両者の距離感が縮まり子どもたちは絵本の世界をより一層楽しむことができたようです。今年度も訪問希望校が多く、札幌市教育委員会と二人三脚で積み上げてきた本事業の成果を実感しております。今年度は各アナウンサーの担当回数を増やし技術を磨きました。局内のスタジオとは違った緊張感の中、子どもたちの目の前で反応を直接感じながら朗読を披露し、各自のスキルアップにつながったと手ごたえを感じています。

子どもたちにより楽しんでもらえるよう絵本選びの幅を広げ、各アナウンサーの技量向上に向けた工夫を今後もしていこうと思います。

### 【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

#### <大竹彩加アナウンサー>

間の取り方・声のトーン・声の張り方・読むスピードなど色々なパターンを試してベストを探りました。自分自身の成長につながる 1 冊となりました。

#### <糸賀舜アナウンサー>

児童の反応が良く、読みがオーバーになりそうでした。あくまでも絵本の世界観を大切にして読むことを意識したいです。

#### <森田絹子アナウンサー>

今年度からアナウンサー 2 人態勢になったので、役割分担をしていかに完成度を高められるかが課題。

### 【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

#### <校長・教諭>

「さすが、の一言です」「教諭や図書ボランティアの保護者とはやはり違いますね」「子どもたちにとって 45 分は長く

感じる時もあると思いますが、今日はあっという間に感じたと思います」「特に 4 年生はコロナ禍で楽しいことがほとんどできていなかった学年で、今回の読み聞かせをとても楽しみにしていて参加できたことを喜んでいました」

#### <児童>

・「動物それぞれに声色が変わって面白かった」「役になりきっていた」「今度、本を音読するときまねをしてみたい」

・「体育が苦手だ」という部分では「俺も苦手」という反応がありました。